

トモネット英語塾 週刊英語レポート講座



I have a theory that the only original things we ever do are mistakes.

(久しぶりの塾長登場！！友人の結婚式会場にて。)

著作権について

『トモネット英語塾、週刊英語レポート講座』（以下、本書と表記）は著作権法で保護されている著作物です。本書の使用に際しましては、以下の点にご注意ください。

1. 本書の著作権は、トモネット英語塾にあります。
2. トモネット英語塾の書面による事前許可なく、本書の一部または全部をあらゆるデータ累積手段（印刷物、電子ファイル、ビデオ、テープレコーダー等）により複製、流用および転載、転売することを禁じます。

使用者許諾誓約書

本契約は、本書を購入した個人・法人（以下、甲と称す）と、トモネット英語塾（以下、乙と称す）との間で合意した契約です。本書を甲が受け取り、パッケージを開封することにより甲はこの契約に同意したことになります。

第1条 本契約の目的

乙が著作権を有する本書に含まれる情報（ノウハウ等）を 本契約に基づき甲が独占的に使用する権利を有するものです。

第2条 禁止事項

本書に含まれる情報は、著作権によって保護されています。甲は本書から得た情報を、乙の書面による事前許可を得ずして出版・公演活動および電子メディアによる配信により一般公開することを禁じます。特に第三者に渡すことを厳しく禁じます。甲は、自らの事業、所属する会社および関連組織（販売店・代理店等）においてのみ本書に含まれる情報を使用できるものとします。

第3条 契約の解除

甲が本契約に違反したと乙が判断した場合は、乙は使用許諾契約書を解除できるものとします。

第4条 損害賠償

甲が本契約の第2条に違反した場合、本契約の解除に関わらず、甲は乙に対し、その違約金として、違反件数と販売価格を乗じたものの15倍の金額を支払うものとします。

第5条 責任の範囲

本書の情報の使用責任は甲にあり、この情報を使って損害が生じたとしても、乙は一切の責任を負いません。

「トモネット英語塾、週刊英語レポート」

著者(著作権者): 中西 智裕

■ はじめに

こんにちは、中西です。

週末は友人の結婚がありました。

ここ3ヶ月間、立て続けの結婚式と
友人代表のスピーチ……。

しばらくは友人代表も休業しようと思います(笑)。
いい経験にはなるけどなあ……。

■ コラム:英語上達の秘訣って？

英語の上達を望む人はたくさんいる。

ボクは今でこそ、ニュージーランドをはじめ、
英語圏に住んでいる友人といつでも連絡を取ることができる。

うかつにスカイプのアイコンをつけていると、お構い無しに

メッセージが飛んでくる。こんなやつ⇒



日本にいながらにして、英語を使う環境に身を置く。
そんな状態を意図的に作り出す。

そんな環境に身をおくようになったことを考えていたら、
ふと思い出した。

6年前。

ニュージーランドへ留学した時のことだ。

そのときのボクの英語？

あなたがタイムスリップして当時のボクに会えたなら、
是非、英語で話しかけてみて欲しいです。

そしたら、きっと日本語で返事が返ってくるはず(苦笑)。

要するに、ボクの英語はそんな状態からのスタートだった。

そして、片言の英語らしきものを身に付けてそのままニュージーランドへ
飛び込んだ。

性格上、そーゆー環境に身を置かないと上達しないのだ。
(事実、結婚式のスピーチでもそうだった)

そしたら案の上、常に見えない何かに追い込まれていた。

自分にとってキツイと思う選択肢を選ぶようになったきっかけは
そもそも高校時代に原因があるわけなんだけど、

この話は長くなるので、また機会があれば。

ともあれ、追い込まれて初めて力を発揮するというのは、
人間の性質上、ある意味、誰にでも備わっているように思う。

そう、火事場の何たらというやつだ。

だからこそ、英語を上達させるためには留学しろ！！

とは言わないけれど、何かしらの負荷をかけて、
自分を追い込んでいくのは非常に効果がある。

たとえば、TOEICを申し込んだら
もう後戻りはできないように、やるしかない。

それと同じ。

短期集中。これがマンネリ化を防ぐための特効薬になる。
まさに「背水の陣」で仕掛けていく。

閑話休題。

「あの一、英語を習得しようと決意しても、
何からしていけばよいのか分かりません。」

まあ、そうだろうと思う。

インターネットで検索して見ても、発音が大事、英文法が大事、
単語力が大事、イディオムが大事などなど一気に色々な情報が入ってくる。

そんなこと言われても、英語を上達させたい人、
これから始めようとしている人にとっては、

どれも大事な気がして、結果として手に付かなくなる。

うんと昔はDVDもなければ、テレビもなし、英語の教材だって、
文法書だって今の100分の1くらいの選択肢「しか」なかった。

だからこそ、迷うというよりも、それをやるしかなかった。
そう、今とは全く状況が違うのだ。

昔の偉人たち、例えば鴨長明が今の時代にタイムスリップして
英語を勉強させたら、当時と同じ学習法を行うだろうか。



(鴨長明 自宅にて)

だそうです。

今はやりようによっては、昔と比べれば語学をそれなりにモノにするまでに掛かる時間は10分の1以下だと思う。それくらい環境は大きく変わった。

ボクの個人的な意見を言わせてもらおうと、どれも大事だ。

発音もやったし、英文法もやった。単語の丸暗記、書き写しもやったし、イディオムはDUO2. 0を覚えるたびに1ページずつ破って覚えていった。

英語を上達させたいと願うならば、全てやることだ。

最終的にはね。

ただ、大事なことは英語のどの部分を向上させたいかによって「優先事項」をキチンと決めることだ。これは忘れてはいけない。

もし、あなたが英「会話」の向上を目指すのなら、まず大事なこと。それは、話すことだ。誰でも聞けば当たり前だと思うが、

これが中々、出来ない。

話す練習量を増やすはずが、そのための単語を覚えるために
単語帳を一生懸命に覚えている……

そんな暇があったら、1000通りの英会話フレーズをまずは丸暗記すればいい。
自分の言葉なんてものは、最初から作り出せないからだ。

「おはようございます」「ありがとうございます」
「また会いましょう」「おめでとうございます」……

これらの表現は言ってしまうと、全て丸暗記した表現に他ならない。
自分の表現？自分の言葉？

いやいや、意識しようがしまいが、極論すればあなたが発している言葉の
ベースは丸暗記して覚えたフレーズなのだ。

そう、自分の表現を作り出すのにてっとり早いのは、
フレーズの暗記という土台をまずは作ること。

英「会話」であれば、英文法よりも、発音よりもなによりもまずは
口から英語を発すること。

それから英文法、発音などを気にすればいい。

英語もバランスが大事なのだ。

とにかく、日本人は最初からしっかりしようという意識が強い。
正確に言うのと強すぎる。

いや、この意識が悪いと言っているわけではないよ。
むしろこれは本当に良いことだと思う。

最初からしっかりとした基本が出来ていれば、
後から応用も利くし、修正も簡単にできる。

だからこそ、最初からしっかりと学ぶということは非常に大事。

が、しかしだ。

スポーツでも何でもそうだけど、練習ばかりしていても、
いざ本番になったら練習の成果がでない。

そういうことは本当に多いのだ。

これは語学だけではなく、学校のテストでも同じことが言える。
宿題ではほぼ満点を取れる。小テストも満点を取ることが出来る。

でも、いざ、全国模試になると全く普段の実力が出せない。

これが英語でも起こる。文法や単語も「口」から出でなければ、
英「会話」には全く役に立たない。

英「会話」の力を目標にしているのならまず話す機会を
増やすことを第一の目標にするべきだ。

そして、その目標を達成させるために、
あなたなりにトモネット英語塾を最大限に活用する。

このサイクルがあなたの英語を上達させるのだ。

まず動いてみる。

そこから全てが動き出す！

■ 出来事 event / incident / accident / occurrence

英語の中に存在する、綴りが似ている単語。

これは、その殆どが同じような意味を持っています。

言語学の観点から見ると、同じルーツをたどるそうですが、
大事なのは、「同じような」意味であって「同じ意味」ではないということ。

単語、言葉が違えば、必ずニュアンスが違うのだということだ。

その一例として今回は「出来事」について紹介します。

■ event [ivént]

テレビを見ても、新聞を読んでも、実に毎日色々なことが起こる。

(たまには、新聞に書くことがないくらい何も起こらない日があってもいいのにね。)

ボクは、テレビは殆ど見ないし、新聞も読まないから、
それほどメディアがどうこう言っているのは気にならないんだけど、

最近、買い物に行って気が付いたことがある。

それは・・・

ない。

いつものところに、ない！！

置いてない！！

代わりに、その「聖域」にコシヒカリがどっしり積んである

……これは夢か。

そうバナナがないのだ。

それも何日も何日も……。

きっとまた、みのさんがテレビで
余計なことを言ったのかなーと思っていたら、

とある芸能人がバナナダイエットを提唱して云々……。

ボクの朝ご飯が突如として無くなってしまった事実 zu 怒りを覚えつつ、
毎日の朝食をりんごに代えた今日この頃です。

こんな具合で、特に注目に値する重要な出来事だとか、大事件、
または様々な行事(お祭りとかね)を英語では、event で表現します。

日本語でも、これは最も一般的な言葉ですよ。

よく、年末年始に今年の10大事件なんたらという言葉 zu 耳にしますが、

これなんかも英語で言えば、

the ten most important events of the year ですよ。

それから、冒頭のバナナの話のように event は自分にとって
大きな出来事の場合も同じように使います。

たとえば、結婚式は当事者にとっては、
ほぼ間違いなく人生最大の event になるだろうし、

初めての海外旅行もある人にとっては、一大 event ですよ。

まずは、これが基本。

■ incident [ˈɪnsədənt]

続いて、incident。

これは、「出来事」を表現するのにやや改まった語ですが、

ニュアンスとしては、event ほどの重要性はないです。

強いて言えば、event に対して付随(おまけ)して起こる
「偶発的な」小さな出来事(小事件)をニュアンスに含み、

どちらかというと、よくない出来事を表すそんな語です。

だから、It was an incident～と言えば、

あーあんまし良い出来事じゃなかったんだねー。できれば聞きたくないなーとなるし、

It was event～となれば、えっなにになに??

何か面白いことでもあったの? っとなる。

ニュースなんかだと、

There was an incident in a downtown bar where two men got into a fist fight.

※ fist fight 殴り合い

こんな具合ですね。

There was an incident⇒ふむふむ。あんまりよくないこと(事件)があったんだね。

in a downtown bar⇒繁華街の飲み屋さんであったんだー。へー。

two men got into a fist fight⇒殴りあったんだね。痛そうだ。。

ってなる。

いつものように、ポンポンポンって具合に読む。
そしたら、たったの3語。

ちなみに、これは補足になりますが、

incident の形容詞は、incidental で

「incidental expenses」は、付随してかかる費用という意味から
「雑費」の意味になります。

それから、副詞の incidentally は、

付随して、付け加える語なので、
「ついでに、ところで」という意味で使われます。

(副詞は表現の幅を広げるので、ある程度は覚えておくと便利だ。)

Incidentally, what became of tomo? I haven't got of his newsletter.

「ところで、トモはどうしたの？最近、メルマガを見てないけれど・・・」

■ accident[ˈæksɪdənt]と occurrence[əˈkɜːrəns/əˈkʌr-]

accident は、日本語で言うところの、
「事故」として使われることが多いですが、

ニュアンスとしては、

身体に危害を及ぼす思いがけなく不快な出来事(事故)、
または、単なる偶発的な出来事の意味で使われます。

たとえば、

traffic accident だとか、
railway accident

のように、体に危害を及ぼすことを表すときに
最もよく使います。

それから、「偶発的な」というのは、

accident はいつでも「突然、起こる(降りかかる)事故」であるから
ということなのですが、

ここから、by accident という表現が「偶然」という意味で使われます。

It happened **by accident**.
「それは偶然起こった」

こんな具合ですね。

また、occurrence は

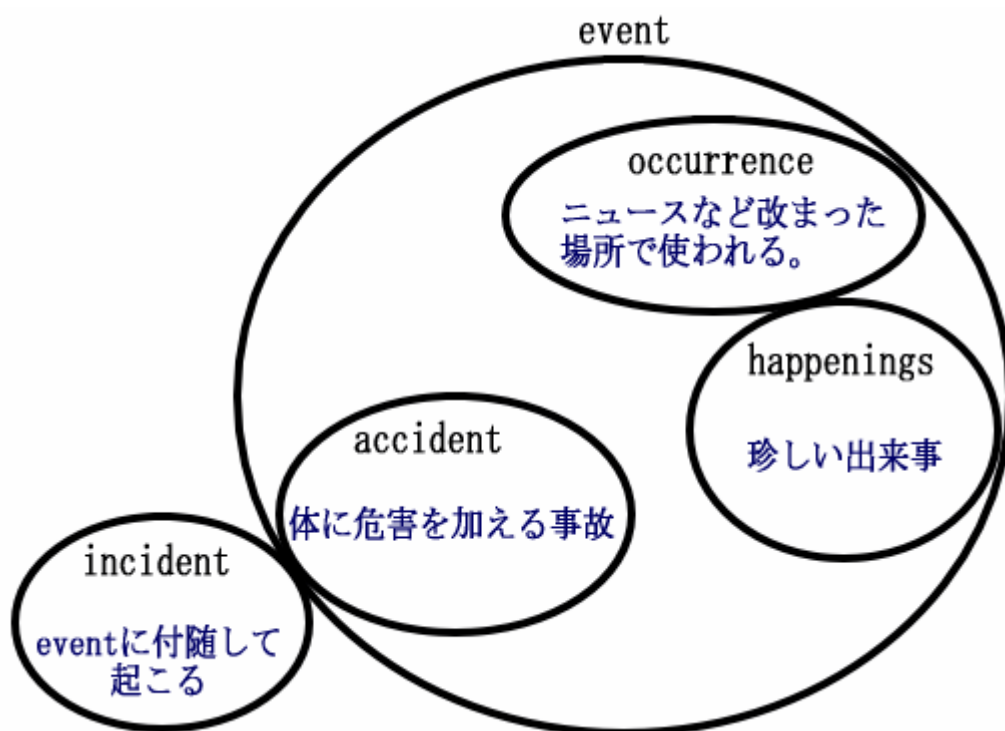
Global warming has become a common **occurrence**.

こんな具合でニュースなどで改まった状況で使います。

それから occurrence と同じような意味で happening がありますが、

出来事の中でも、複数形 happenings にして
珍しい変わった出来事という意味で使われます。

まとめると、



こんな具合ですね。

では、もしもあなたの身に危険なことが起こって、
誰かに一刻も早く知らせないといけない場合は、

どう表現したらいいでしょうか？

あなたならどうする？

それでは、今回は以上です。

次回は日常会話で意外と使われる言葉、
「中心、中央」について説明していきます。

お楽しみにー

■ 最後に

I have a theory that the only original things we ever do are mistakes.

Billy Joel

「人間ができる唯一の独創的な行為こそ、
間違えることなのである。」

七転八起。

失敗を恐れるな。

やろうともせずに逃してしまうチャンスこそ、
恐れるに値するのだ。

■ 追伸

年末に行くかもしれない(笑)、懇親会を仕切ってくれる塾生を引き続き募集します。場所は、横浜の中華街になる可能性が高いですが、相談等も含めて気楽に中西までメールくださいね。

succeed_nz@yahoo.co.jp

『トモネット英語塾』

塾長 中西 智裕